

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	118人	社会	117人	数学	117人
	理科	117人	英語	117人		

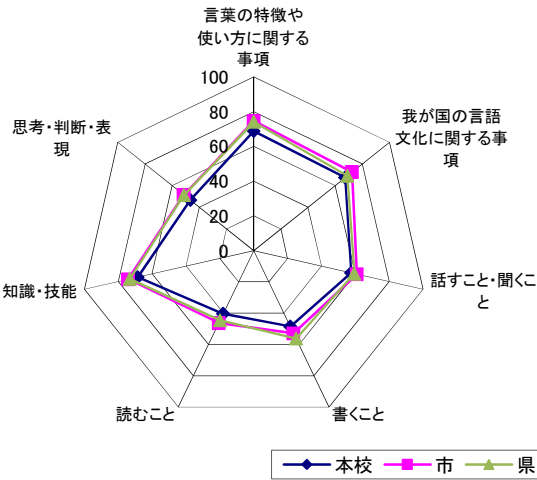
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.8	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	67.4	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	57.6	60.9	59.5
	書くこと	48.5	52.8	56.2
	読むこと	40.3	46.2	44.5
観点	知識・技能	68.5	74.2	73.1
	思考・判断・表現	46.7	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

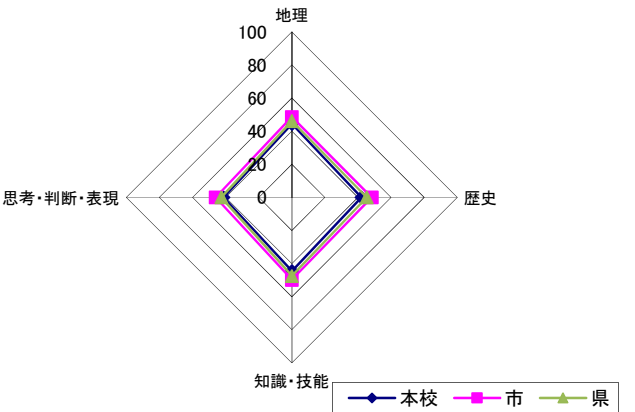
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	正答率は、市平均を5.9ポイント、県平均を5.3ポイント下回った。 ○漢字の読みの問題では、県平均を上回っているものもある。 ●語彙力が低く、言葉を的確に使うことを苦手としている生徒が多く、無回答率も高かった。	・授業の中で漢字を使うこと、分からない漢字があれば調べることを習慣化させる。 ・語彙力を高めるために、ことわざや慣用句、文法などの単元では、分かりやすく丁寧に個別指導を行っていく。 ・文法については、生徒の日常生活との関連を持った言葉を扱うことで、言葉を的確に使うことの大切さを意識させる。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は、市平均を5.1ポイント、県平均を1.7ポイント下回った。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことは、おおむね定着している。 ●行書の基礎的な書き方が定着していない生徒が見られる。	・今後も、音読や朗読を通して古典特有のリズムを味わいながら、古典の基礎事項の定着を図っていく。 ・古典への興味・関心を高めるため、様々な古典の作品に触れ、昔の人の生活や考え方を学ぶ学習の場を設ける。 ・行書の特徴(点画の連続や省略など)がなぜ生じるか、筆順を意識させて実感できるように指導を工夫していく。
話すこと・聞くこと	正答率は、市平均を3.3ポイント、県平均を1.9ポイント下回った。 ○授業において、話すこと・聞くことに対する意欲は少しずつ高まってきている。特に自分の考えとその根拠に注意して話すことができるようになっている。 ●目的や場に応じて自分の考えを話したり、話し手の意図を考えながら話の内容をポイントをおさえて聞き取ったりすることが苦手な生徒が多い。	・授業の中で自分の考えを発表する場を増やし、話題の提示から、自分の意見や考えを述べるパターンを指導する。 ・聞くときにメモをとらせ、5W1Hを聞き取る基本的な学習内容を取り入れ、定着を目指し、繰り返し指導を行っていく。
書くこと	正答率は、市平均を4.3ポイント、県平均を7.7ポイント下回った。 ●書くことに対して苦手意識の強い生徒が多い。 ●短文式と比べ、記述式の問題の正答率が低く、長文を書くことに慣れていない生徒が多く見られる。	・「書くこと」の単元の指導を強化し、様々な意見文の書き方のパターンを用いて、丁寧に指導を行う。 ・字数・時間・条件などにあわせて記述する練習を授業や、単元の感想や意見など、短い文でも自分の考えを書く活動を多く取り入れる。
読むこと	正答率は、市平均を5.9ポイント、県平均を4.2ポイント下回った。 ●登場人物の心情の変化を描写を基に捉えることが苦手な生徒が多く、無回答率も高かった。 ●文章から読み取ったことや自分が考えたことを言葉で書いたり、発表したりする力が育っていない。	・短い文章で内容を要約するトレーニングを取り入れて、文の大切なところを押さえる学習を取り入れる。 ・内容を比べながら文章を読み、自分の意見や立場をはっきりさせた読み取りを授業で行う。 ・小説などの心情を追うときに、言葉は勿論、行動描写や情景描写などにも注目し、読解できるように指導を充実させる。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	44.4	48.6	46.2
	歴史	42.1	48.3	45.3
観点	知識・技能	44.6	49.8	47.5
	思考・判断・表現	41.2	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

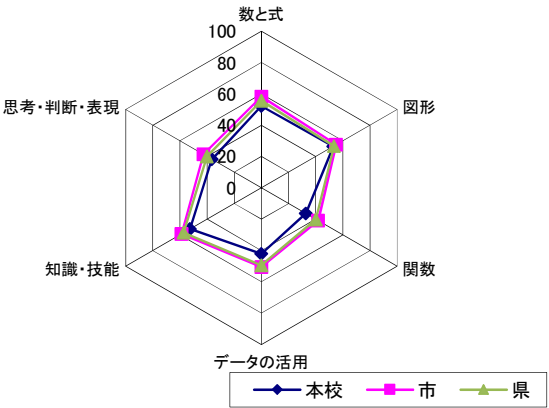
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	正答率は、市平均を4.2ポイント、県平均を1.8ポイント下回った。 ○アフリカ州の国境策定の経緯についての理解を問う問題や世界の気候区分の特色についての理解を問う問題の正答率は市平均・県平均ともに上回っている。 ○資料を活用し、原油の国際価格の変化の特徴を記述する問題の正答率が高く、資料活用能力が定着してきている。 ●知識・技能に関する問題の正答率が市平均・県平均ともに下回り、基礎・基本的な知識や技能の定着に課題が見られる。 ●複数資料を活用する問題の正答率が低く、複数の資料を活用し、表現することが苦手な生徒が多い。	・日常の授業において、生徒の興味・関心を高める工夫を取り入れるとともに、小テストを通して定期的に定着度を確認し、必要に応じて復習を取り入れ、「分かる、できる」と生徒が実感できるよう指導を工夫していく。 ・地図やグラフの読み取り方について、授業の中で複数資料を活用して、読み取るポイントやまとめ方などを指導していく。 ・穴埋め式の課題や短答式の課題を段階的に行ったり、タブレット端末を活用し、自分の考えをまとめ、共有したりする場を取り入れ、表現力を高める指導を行う。
歴史	正答率は、市平均を6.2ポイント、県平均を3.2ポイント下回った。 ○鎌倉時代の問題の正答率が市平均・県平均をとともに上回っており、基本的な流れを理解できている。 ○聖武天皇が目指した政治の在り方についての理解を問う問題の正答率も市平均・県平均ともに上回っている。 ●知識・技能に関する問題の正答率が市平均・県平均ともに下回り、基礎・基本的な知識や技能の定着に課題が見られる。 ●複数資料を用いて考える問題の正答率が低く、複数資料の活用が苦手な生徒が多い。 ●琉球王国を中心とする貿易関係についての理解を問う問題の正答率が市平均・県平均ともに大きく下回っている。 ●文化史への理解を問う問題の正答率が低く、文化史に課題が見られる。	・授業のはじめに、前回までの学習内容の確認を行うことで、基礎・基本的な知識の定着を図る。 ・国際関係や人物関係を図式化して提示し、関係性が理解しやすいように指導を工夫する。 ・文化史について、視聴覚資料を使って確認するとともに、当時の時代背景や情勢を関連付けて理解できるよう指導していく。 ・タブレット端末を活用しつつ、課題解決型学習を効果的に行い、資料活用能力や思考力・判断力・表現力を向上につなげる。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	52.2	58.2	55.5
	図形	53.0	55.1	53.5
	関数	32.7	41.9	40.2
	データの活用	42.1	50.5	49.4
観点	知識・技能	52.6	58.8	57.3
	思考・判断・表現	36.5	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

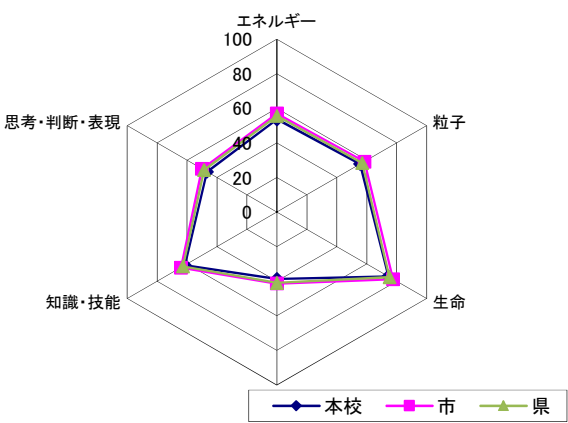
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は、市平均を6.0ポイント、県平均を3.3ポイント下回った。 ●100個ずつ基石を並べたときの、使った基石全部の個数を求める問題では、市平均・県平均を下回った。 ●与えられた文章題に対して、適切な1次方程式を立式する問題でも、市平均・県平均を下回った。	・1次方程式などの計算演習を繰り返し行い、計算力の定着を図る。 ・様々な事象における数の中で、何を変数や定数として考えるべきかを判断できるような指導を行っていく。 ・計算の手順に必要な「等式の性質」などの知識を身に付けることで、深い理解につなげるなど、指導を充実させる。
図形	正答率は、市平均を2.1ポイント、県平均を0.5ポイント下回った。 ○回転移動したときの回転の角度を答える問題では、市平均・県平均を上回った。 ●垂線の性質を理解し、作図する問題では、市平均・県平均を下回った。	・平面図形においては、作図の問題を再確認し、「2点から等距離」、「2辺から等距離」の知識の定着に向け、繰り返し指導を行っていく。 ・空間図形においては、展開図と共に考えることで、辺や面の位置関係、体積や表面積などの理解につながる指導を工夫していく。
関数	正答率は、市平均を9.2ポイント、県平均を7.5ポイント下回った。 ●与えられたグラフから、速さを求める問題では、市平均・県平均ともに10ポイント程度下回った。 ●与えられたグラフをもとに、正しいものを選ぶ問題では、市平均・県平均を大きく下回った。	・関数の意味や、実社会に隠れた関数の活用例などを学び直し、その有用性を実感する機会を設ける。 ・与えられたグラフの中から数量を読み解く力を身に付けるため、授業でも問題を取り扱い、関数の考え方を利用した文章問題などを繰り返し解くことで理解につなげる。
データの活用	正答率は、市平均を8.4ポイント、県平均を7.3ポイント下回った。 ●ヒストグラム山の形が異なる理由について、当てはまる言葉を答える問題では、市平均・県平均を大きく下回った。 ●ヒストグラムから、その総度数を答える問題では、市平均・県平均を下回った。	・度数分布表における用語の理解や、代表値の求め方の復習を繰り返し行い、基本事項の定着に努める。 ・ヒストグラムから読み取って答える問題や、それらを比較し考えをまとめる問題を解くことで、自分の考えを課題解決に利用する能力を育てる。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	53.7	57.0	55.7
	粒子	55.6	58.6	56.9
	生命	74.5	77.5	75.2
	地球	38.6	41.4	40.9
観点	知識・技能	61.5	64.1	62.8
	思考・判断・表現	46.7	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

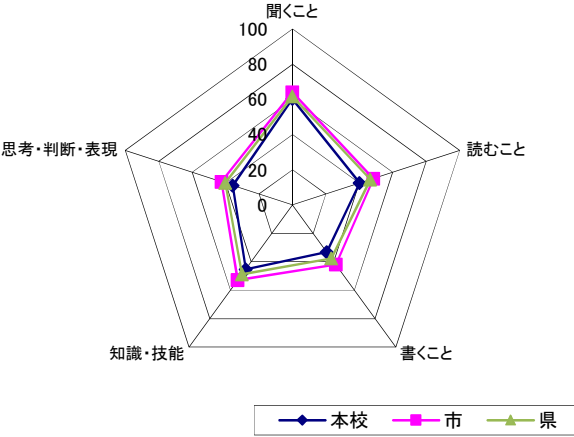
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	正答率は、市平均を3.3ポイント、県平均を2.0ポイント下回った。 ○入射角を選ぶ問題では、市平均・県平均ともに上回った。 ●鏡に映った像が見える点を選ぶ問題では、市平均・県平均ともに下回った。	・光や音の単元は、1時間の授業の中で内容が完結することが多く、定着しにくいことを防ぐため、復習を取り入れたり、短時間で演示実験を行い、内容の再確認をしたりする時間を設ける。 ・図から読み取ることも必要になってくるため、練習問題などを繰り返し解く時間を多く取り入れる。
粒子	正答率は、市平均を3.0ポイント、県平均を1.3ポイント下回った。 ○混ざっている2種類の物質の組み合わせを選ぶ問題では、市平均・県平均を上回った。 ●現れた物質とその質量を選ぶ問題では、市平均・県平均を下回った。	・粒子の分野においては、実験の内容が多い単元であり、さらに実験方法を理解できるよう工夫して指導する。 ・グラフ化やモデル化の内容は、学年が進むにつれて難しくなるため、その都度基礎・基本の確認を行うとともに、理解の定着につながる授業展開を工夫していく。 ・グラフからの読み取りなど数学科と指導方法について共通理解して指導していく。
生命	正答率は、市平均を3.0ポイント、県平均を0.7ポイント下回った。 ○ライオンとシマウマの犬歯を選び、ライオンの犬歯が獲物を捕らえることに適していることを答える問題では、市平均・県平均を上回った。 ●葉脈の名称を答える問題では、市平均・県平均を下回った。	・生命分野の学習は、生徒も比較的取り組みやすく、好きな単元であるが、生物の理解が乏しく、名前を知っている程度になっている。授業で一步踏み込んだ点に触れたり、一人一台端末を活用するなど、生徒の興味・関心を高める時間を確保する。 ・植物の単元は一番最初の単元であり、忘れてしまう生徒が多いため、復習の時間を設け、基本的な知識の定着につなげる工夫をする。
地球	正答率は、市平均を2.8ポイント、県平均を2.3ポイント下回った。 ○示相化石の名称を答える問題では、市平均を・県平均を上回った。 ●マグマがどこでどのように冷えたか選ぶ問題では、市平均・県平均を下回った。	・地球分野の学習は、用語の正しい理解が定着していないことが多いため、分かりやすく整理した説明や板書を心掛ける。また、自主学習を通して、自分でまとめたり、確認をしたりできるように指導していく。 ・問題に慣れることも必要になるため、問題を解いて練習する時間を設ける。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	60.2	64.0	61.6
	読むこと	40.2	48.4	46.6
	書くこと	33.3	42.0	37.8
観点	知識・技能	45.3	52.9	48.9
	思考・判断・表現	35.7	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	正答率は、市平均を3.8ポイント、県平均を1.4ポイント下回った。 ○絵を適切に表している英文を選んだり、英文の概要を聞き取り、適切な写真の順番を選んだりすることはよくできており、デジタル教科書の視覚的な教材やリスニング教材を活用している成果であると考えられる。 ●情報を正確に聞き取り、適切に応答することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・生徒がより実践的なリスニングと応答のスキルを身に付けるために、対話練習やロールプレイの時間を多く取り入れる。 ・実際のコミュニケーションシナリオ(買い物、道案内、電話での予約など)を工夫し、生徒が情報を正確に聞き取り、それに応答する学習を取り入れる。 ・短い会話や説明を聞いた後に、重要な情報(日時、場所、人物名など)を聞き取ってメモするなど、具体的な情報を聞き取る学習に力を入れていく。
読むこと	正答率は、市平均を8.2ポイント、県平均を6.4ポイント下回った。 ○日常的话题について、状況などから判断して、必要な情報を読み取る問題に関しては、無回答者はいなかった。 ●日常的话题について、情報を正確に読み取ることに課題が見られる。	・生徒が文章を読む際に、キーワードや状況から意味を推測したり、文脈や背景情報から内容を推測する活動を取り入れる。 ・情報を正確に読み取るためには、精読と速読の両方のスキルが必要であるため、重要な情報を見極めたり、文章全体を素早く理解したりできるよう指導を工夫する。 ・生徒が様々なトピックやスタイルの文章に慣れるようにするため、ニュース記事やブログ、SNSの投稿など、実際の英語に近いテキストを教材に取り入れる。
書くこと	正答率は、市平均を8.7ポイント、県平均を4.5ポイント下回った。 ○空欄に当てはまるものを選んだり、英語を書いたりする問題や、英文を正しい語順で書いたりすることは県の平均を上回っている。 ●対話の流れに合った英文を書く問題は、無回答率が高く、正答率が市や県の平均を大きく下回っている。	・ペアワークやロールプレイングなど、実際の会話を意識した活動を取り入れることで、生徒が自然な流れの中で英文を作成できるように指導していく。 ・文法や語順に関する基礎的なトレーニングを行い、簡単な英文作成から複雑な文章へと段階的に難易度を上げる学習を行っていく。

宇都宮市立宝木中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師も含む)」の質問に関して、「1時間」以上勉強している生徒の割合が62.8%であり、県の平均と同程度であった。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の質問に対して、「はい」と回答した生徒の割合が37.9%であり、県の平均を0.6ポイント上回った。生徒の知的好奇心を生かした授業作りの成果が見られる。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の質問に対して、「はい」と回答した生徒の割合は19.4%であり、県の平均を1.5ポイント上回っている。今後も生徒の積極的な発言を生かしながら、協働的な学習展開を工夫していく。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」の質問に対して、「はい」と回答した生徒の割合は50.0%であり、県の平均を12.6ポイント上回っている。今後も生徒と教員の信頼関係を更に深め、質問しやすい授業の雰囲気醸成していく。

●「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師も含む)」の質問に関して、「30分より少ない」、「全くしない」の合計した割合が17.8%で、県の平均より5.3ポイント上回っており、家庭での学習習慣が身に付いていない生徒が多い。

●「難しい問題にであうと、よりやる気が出る。」の質問に対し、肯定的に回答した割合は29.9%で、県の平均より8.6ポイント下回っており、粘り強く学習に取り組む姿勢や態度が課題である。

●「普段(月～金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)」の質問に対して、3時間以上使用している生徒の割合が21.0%であり、県の平均を3.9ポイント上回っている。保護者会等でも啓発してはいるが、今後も更に保護者との連携が必要である。

●「自分には、よいところがあると思う。」の質問に対して、「はい」と回答した生徒の割合は29.0%で、県の平均より13.0ポイント下回っており、自己肯定感を育てていくことが今後の大きな課題である。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1)『わかる授業』の推進	①「本時の目標(めあて、ねらい)」の確実な提示	「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」の肯定的回答が県や市と同程度である。生徒が「本時の課題」をはっきりと理解でき、学習の見通しが立てられるよう、継続して実践していく。
	②生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答が県や市と比べて約10ポイント下回っている。各教科での話し合い活動において、自分の考えを伝えることはできるが、その中で得た新しい情報を自分の考えに取り入れて深めたり、広げたりするまでには至っていない。自分の考えをもとに、対話を通して考えを広げ、深められるよう指導を工夫していく。
	③「振り返り」活動の徹底	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答が県や市と比べて約10ポイント下回っている。本時の授業で分かったこと、新たな疑問、自分の変化や成長など、生徒自身の学びの進化やつまずきの改善に繋がるよう、ねらいをもった「振り返り」を計画的に位置付けて指導していく。
(2)家庭学習のより一層の充実	・家庭学習(自主学習)ノートの活用の充実化、点検、アドバイス、賞賛 ・家庭学習の充実	「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答が県や市と比べて6～7ポイント下回っている。また、「家で、学校の授業の復習をしている」が県や市の肯定的回答と比べて10ポイント前後下回っており、今後の家庭学習の課題と言える。 「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的回答は県・市と比べて3ポイントほど下回っているため、家庭学習を充実させるために、授業中のアドバイスを継続していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	話し合い活動の充実	各教科での話し合い活動において、自分の考えを伝える前に、相手に分かり易く伝えられる文章に書く活動を入れる。その後、相手に分かり易く伝える活動に移る。話し合い活動の中で得た新しい情報を自分の考えに取り入れて深めたり、広げたりするために、リライトする時間を設ける。